

仙人通信 140 日向沢の峰(1356 m)・蕎麦粒山(1472 m)

蕎麦粒山は奥多摩の日原溪谷を取り巻く、三つドッケと川苔山の中に位置する山で、山頂が蕎麦の実の様に尖っており、遠方からも容易に確認できる山である。名栗湖から秩父地方を結ぶ広河原・逆川林道の有間峠(約 1100m)に車を置いてのピストンである。青梅から秩父に抜ける成木街道を進み、5月から通行が許可された名栗湖畔から逆川に沿って林道を進む。舗装されているも道幅が狭く、その上かなりの落石があり注意が必要だ。白いアオダモ・ウツギ・ヤマアジサイ、紫色のフジやキリが咲き初夏が感じられるコースだ。有間峠には5台程の駐車スペースがあり、大山・東京タワー・海の先に房総半島まで見える。『通行止の表示』のダートの林道がスタート点である。紫のハシリドコロ・シランソウそして、木苺の白い花が綺麗だ。昨日の雨の性だろうか甲羅干しをするトカゲも散見される。15分程進むと、高压線の鉄塔とその先に日向沢の峰が目に入る。山頂を示す小さな標識の反対側の崖を登ると、有間山と日向沢の峰を示す大きな道標だ。目前に見える尾根までは10分足らずであるが、2cm程の板を使った規則正しい階段だ。更に水楢の尾根を10分程詰めると先ほどの鉄塔である。南面は川苔山・棒の折山から西部球場までが、そして北側では武甲山・赤城山・残雪の信越国境の山までも望める。登山道は細い尾根コースとなり、赤紫のミツバツツジとシロヤシヲ(五葉躑躅)のトンネルが見事である。20分程で『オハヤシの頭』だ。尾根の西側が15m程の幅で伐採され、その中にコースがある。左手に5分程緩やかに下った地点で棒の折山方面のコースを分ける鞍部、更に5分程登ると日向沢の峰である。東側は林で閉ざされているも、南には川苔山・三頭山等の奥多摩や道志の峰・先には愛鷹山が、正面には富士山がくっきりである。雲取山を中心に日原を囲む奥多摩の山々も目前だ。この地点は、白岩山・六つ石・御前山を通り五日市へと繋がる仏像線の北側にある浦山層群の日原層及び川苔層の北側に位置する浦山上部層で石灰岩やチャートの山並みである。来た路を『オハヤシの頭』へ戻り、『蕎麦粒山』への草原状のコースを辿る。コースの足元では、黄色いキジムシロや白い小さなアギスミレ・フモトスミレ・大きめのシロスミレ・紫の大きなサクラスミレそしてマイズルソウも小さな花を付けている。水楢の林の中には、ミツバツツジやシロヤシヲが綺麗だ。『オハヤシの頭』から20分程進んだ『北峰』からは、山頂の尖った蕎麦粒山が目前だ。25分で三等三角点の山頂である。東面が開けた山頂からは狭山湖から房総半島そして大山までも望める。ゆっくり昼食をとっているとコガラ・ウグイス・ヤマバトそしてホトトギスまでが加わり、初夏を奏でる大合唱だ。なんとも長閑な山登りが出来、車に戻った約4時間(19000歩)の山路でした。(h 28. 5. 12)

躑躅のトンネル



登山道からの蕎麦粒山



日向沢の頭からの富士

